

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4270800339		
法人名	医療法人 陽迎堂		
事業所名	グループホーム たけべⅡ		
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市今福町北免2091-1 (電話) 0956-74-0128		
評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 11月 4日	評価確定日	平成 21年 1月 13日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤 人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての,	2 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,700 円	その他の経費(月額)	光熱費 1日 100 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 310 円
	夕食	280 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 77 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 陽迎堂 武部病院 / 医療法人 森歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ご利用者の方々の多くは、ホームからフェリーで20分程の所にある“鷹島”の出身であり、昔からの顔なじみの方もおられる。古くから地域の中の病院として、診療を続けていた母体の医療機関の院長が、“地域で暮らす為に”という思いを込めて作りあげたグループホーム“たけべⅡ”。病院の隣接でもあり、24時間医療面でのバックアップ体制が整っている。院長は朝・夕ホーム利用者の状態を観察しており、管理栄養士による献立を含む栄養管理の取り組みも行われ、安心して生活できるホームとなっている。また管理者や介護主任を中心として、スタッフ同士のチームワークもよい状態が保たれており、ご利用者、スタッフともに笑顔の多いホームである。生活面では、スタッフがご利用者に助けられることもあり、皆が助け合いながら温かい思いを持って日々生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 今年の7月に初めて運営推進会議の開催が実現できた。ご利用者やそのご家族、市の職員や社会福祉協議会の会長等に参加していただいた。② ケアプランに関して、ご家族、ご本人の希望をしっかりと汲み取り、さらに主治医や訪問看護師等の意見も反映させている。また、ご利用者の中には毎週デイケアを利用されている方もおられ、デイケア時には出身地が同じ、昔ながらの友人の方々とのお話を楽しまれている等、ご利用者主体のケアプラン内容になってきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年から、1人のスタッフが5項目という担当箇所を決めて、スタッフ全員で協力して自己評価に取り組んだ。また管理者がそれぞれの自己評価をまとめ、さらに項目についての説明を行った。項目の理解が難しいというスタッフからの意見もあったが、今回全員で自己評価に取り組むことができたことで、新たな気付きや行っているケアの振り返りにもつながることができ、実際、ケアに対する姿勢も全体的によくできている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年の7月に初めて運営推進会議の開催が実現できた。ご利用者やそのご家族、市の職員や社会福祉協議会の会長等に参加していただいた。開催当初ということもあり、話の内容としては自己紹介や会議の流れの説明、行事案内等で、まだまだこれから内容を探っていく状態であるが、早速今回初の会議にて、社会福祉協議会の会長より、「分からないことだらけなので勉強してきます」とのお言葉もいただいた。今後は、ホームスタッフからの出席者に管理者だけでなく、介護主任や看護師等も含め、話の内容をさらに深いものにしていき、会議を良い形にもっていけることが期待できる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族よりの不平、不満等はみられていないが、最近はお希望やご要望をいただけることが多くなり、出来る限りご家族等のご希望に添ったケアに努めている。また玄関にはスタッフから見えない位置に意見箱を設置し、来訪時には「何でも言って欲しい」と頻回に伝えていることで、ご家族が意見を伝えやすい環境作りに努めている。公共の苦情窓口・第三者委員の設置も契約時に説明し、掲示をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご家族の協力も得ながら、地域の祭りや敬老会に参加したり、小・中・高校生の体験学習の受け入れや病院や通所サービス事業と合同のクリスマス会の行事に地域住人も参加されたり、近隣の住人に柿や実った果物をいただく等の関係も自然と形成されている。またここ1、2年の間で近所の方々のホームに対する理解も深まりつつあり、草取りのために自然とホームに足を運んで下さる方もおられる。今後も積極的に作品展示会等の地域行事に参加できるような取り組みを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表の院長が地域の中にホームがなかったことや、認知症の方が地域の中で共同で暮らすためにはどうすれば良いかという思いでホームを開設し「家庭的でゆったりした暮らし、安らぎのある暮らし、あなたの健康みんなで守る」を理念として作りあげた。言葉にはあらわれていないが、理念の中の“安らぎのある暮らし”の中には、地域の中での安らげる暮らしという思いが盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、朝の申し送り時に理念の唱和が継続できている。理念の浸透により、徐々に全スタッフの介護感の変化がみられてきており、月1回のカンファレンスや日々のケアの現場、休憩中等でもより深く話し合うことができるようになってきた。必要時には管理者、介護主任が中心となって、言葉遣いや対応方法、大きな声を出さないこと等の注意や指導を行うことで、理念の実践に結びつけることができている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご家族の協力も得ながら、地域の祭りや敬老会に参加したり、小・中・高校生の体験学習の受け入れや病院や通所サービス事業と合同のクリスマス会の行事に地域住民も参加されたり、近隣の住民に柿や実った果物をいただく等の関係も自然と形成されている。またここ1、2年の間で近所の方々のホームに対する理解も深まりつつあり、敷地内の草取りのために自然とホームに足を運んで下さる方もおられる。	○	毎年参加していた市の作品展示会への参加が、今年は展示会場スペースの都合もあり、参加できなかった。展示会へのご家族の参加も増えてきており、ご利用者に意欲や達成感を味わっていただくためにも、来年は市のほうへ早期にお願いし、今後も積極的に作品展示会に参加していくような取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年から、1人のスタッフが5項目という担当箇所を決めて、スタッフ全員で協力して自己評価に取り組んだ。また管理者がそれぞれの自己評価をまとめ、さらに項目についての説明を行った。項目の理解が難しいというスタッフからの意見もあったが、今回全員で自己評価に取り組むことができたことで、新たな気付きや行っているケアの振り返りにもつながることができ、実際、ケアに対する姿勢も全体的によくなってきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の7月に初めて運営推進会議の開催が実現できた。ご利用者やそのご家族、市の職員や社会福祉協議会の会長等に参加していただけた。開催当初ということもあり、話の内容としては自己紹介や会議の流れの説明、行事案内等で、まだまだこれから内容を探っていく状態であるが、早速今回初の会議にて、社会福祉協議会の会長より、「分からないことだらけなので勉強してきます」とのお言葉もいただいた。	○	まだまだ始まったばかりで、手探り状態ではあるが、今後はご利用者やご家族のご意見を引き出せるような会議を目指していく予定である。また、ホームスタッフからの出席者に、管理者だけでなく、介護主任や看護師等も含め、話の内容をさらに現場レベルの深いものにしていき、会議を良い形にもっていきけることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年の7月から市の職員が運営推進会議に参加いただけるようになり、管理者は会議の約1週間後に会議録を提供するために市のほうへ訪問した。市の職員には管理者の顔馴染みの方もおられ、これまでも管理者が定期的に市へ訪問しており、何かあったらいつでも相談や意見交換ができる関係が成り立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来訪時には生活・健康状態を報告し、金銭の報告は月1回出納帳を見て頂いている。ご自分で書けるご利用者には、写真入りの年賀状を本人に書いていただき、書く事が困難なご利用者にはスタッフが言葉を書き添え、ご家族や友人に出している。スタッフの離職は特に報告していないが、新入職員はご家族来訪時に必ず紹介している。将来的にはホーム便りを検討しているが、今は年賀状やお手紙で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族よりの不平、不満等はみられていないが、最近のご希望やご要望をいただけることが多くなり、出来る限りご家族等のご希望に添ったケアに努めている。また玄関にはスタッフから見えない位置に意見箱を設置し、来訪時には「何でも言って欲しい」と頻回に伝えていることで、ご家族が意見を伝えやすい環境作りに努めている。公共の苦情窓口・第三者委員の設置も契約時に説明し、掲示をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフ同士での勤務交代を自由に行い、また休みの希望に極力応じるようにしており、主に主任が相談しやすい雰囲気を作るように努めている。代表者は異動等は法人内も含め基本的に行わないようにしている。夜間は病院から応援体制も整えられ不安の軽減になっており、親睦を目的とした食事は法人全体で合同で行われている。新任スタッフには出来る限り1週間程度体験的に仕事をしていただき、スタッフが一緒にケアを行いながら説明を行っており、入職後も慣れるまでは指導者をつけながら支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの外部研修参加は日程調整等も含め難しい部分があり、管理者の参加が多くなっている。法人全体での研修会は年に5、6回程、不定期で行われており、グループホーム会議とともにスタッフが参加できており、グループホーム会議では事例検討等を行っている。立場や経験に応じた育成計画は作成されていないが、個別の研修に関する構想は管理者自身は持っており、資格等の取得については勤めている現在である。	○	主任を含め、スタッフは内部、外部研修に対して意欲的であるため、今後も特に外部研修等の参加を増やしていきたいと考えている。またスタッフの立場や能力に応じた育成計画に関して、まずは本人と個々の目標に関して話を行い、育成計画を作成していく事で、スタッフの自己啓発や積極性につなげて行けることに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流の大切さを理解しており、市の介護支援事業者連絡協議会のグループホーム部会に一昨年前より参加している。また管理者が中心となって勉強会に参加し、カンファレンス時に資料をスタッフに配布している。他ホームと電話等での情報交換も行っており、スタッフ同士の交流も含め、お互いに1日研修等を検討しているが実践には至っていない。	○	管理者が中心の参加に終わらず、お互いのホームでの1日研修やスタッフ同士の交流を持ち、情報交換や事例検討等を同業者同士で行いながら、共に質の向上につなげられるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から直接の入居時は、管理者がお見舞いに行き、顔なじみになる事から始め、ご本人、ご家族にも見学にお越しいただいている。病院以外からの入居ご希望に関しては、事前に見学に来ていただき、既に入居されているご利用者方やスタッフと一緒に時間を過ごしていただいている。出身地が同じで既に顔なじみや知人が多く、安心してサービスを利用することができている。入居の説明はご家族、ご本人の意思を確認しながら行うが、ご本人の納得が得られないまま止むを得ず入居になった場合は、ホームに慣れるまでご家族等に電話をかけた後、できるだけ多く面会に来ていただく等で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お手玉の作り方やキャベツやごぼうの千切りが上手な方もおられ、スタッフが意識して教えていただく場面を作っている。また魚の名前や昔ながらの花の名前等も教えていただくこともある。夜勤時にスタッフに対し、「肩をもんでやろう」「あなたが大変な時は声をかけて」と言って下さったり、「何かあったら助けるよ」と言葉をかけていただくこともあり、ご利用者からのひとつひとつの温かい言葉が心強く感じ、いつも励まされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や習慣を基に色々な場面を提供したり、ソファで寛いでいる時に側に座りながら、何気ない会話の中から少しずつ聞き取りを行っている。また1対1で一緒に散歩をしながら得た新しい気付き等も記録に残したり、申し送りにて情報を共有している。スタッフからの場面提供は行いが無理強いせず、その時々々の状態で変更を行っている。自己表現が難しいご利用者に対しては時間をかけて、スキンシップを行いながら安心感を持っていただく事で、次第に意思表示を行っていただけるようになっていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者のケアチェックを基に、管理者がケアプランを作成している。またスタッフ会議で気付きや意見を出し合い、計画に反映させている。ご家族にも希望等を尋ねているが「今のままで結構です」と言われる事が多く、意見の反映は十分にできていないが、ご本人の希望をしっかりと汲み取り、さらに主治医や訪問看護師等の意見も反映させている。また、ご利用者の中には毎週デイケアを利用されている方もおられ、デイケア時には出身地が同じ、昔ながらの友人の方々との会話を楽しまれている等、ご利用者主体のプラン内容になってきている。	○	今後は“床屋”や“散歩”等の外出支援や、ご家族との関わり、役割等の内容をケアプランの中に反映させていくことで、より“地域で暮らす”という視点に近づけていけることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化や要望等ある方については月1回のカンファレンスで見直しを行い、特に変化が見られない方についても毎月ミーティング等で検討を行っている。モニタリングも体調変化、状態変化がみられる場合は随時、また3ヶ月に1回は必ず実施しており、現状に即したプランとなっている。またプランの見直しの際は、担当者、管理者、主治医、訪問看護師等で検討することで、幅広い視点からのモニタリングとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり24時間いつでも医師と内線につながる状態にあり、朝・夕2回の往診があり安心感につながっている。通院介助、美容院への移送等希望に応じた対応や、散歩の途中で地域の方の自宅や友人の家に立ち寄りすることもある。また“自宅に帰りたい”というご利用者の希望に添い、スタッフとともに自宅へ行き、空気の入れ替えや掃除を行う等、ご利用者の希望に応じた柔軟な対応もできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	古くからの病院でもあり、ほとんどのご利用者は母体病院の医師が主治医である。入居の際は、母体病院の医師へ主治医を変更されるご利用者が多いが、専門医療に関してはこれまでの病院を継続していただいております。母体病院以外の受診時はスタッフが付き添い、少し遠方の病院には管理者が受診介助を行っている。スタッフは全てのかかりつけ医に、いつでも相談が出来る状態にある。また母体病院の主治医が朝、晩に定期的な往診され、ご利用者にお話かけている等、医療連携体制は十分に整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期にどう対応するかについて、ご家族に説明しているが、確認ができていない方もおられる状況である。また母体が病院であるため、「最期は病院で診てもらえるから安心…」と思われるご家族が多い。対応できる範囲内はホームで看ることは可能であるが、入院が必要になって来た時には病院に移ることをご家族にも予め説明し、了承をいただいております。どの時点で入院するかはその都度検討を行って行くようにしている。	○	医療連携体制は整っており、ホームでの看取りの準備はできているため、今後はさらにお一人お一人に対して、どこで最期を迎えたいのかを普段の会話の中でさりげなく聞き取っていき、本当の思いを汲み取り、また、ご家族にも確認して行くようにすることで、終末期に向けた体制が確立できることに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフのケアの中での声の大きさや言葉遣い等、気になる時は管理者、介護主任を中心にスタッフ同士でもお互い注意を払っている。ご家族の了承の上、日頃、ご利用者が反応しやすい名前と呼ばせていただいたり、慣れ親しんだ方言で話をさせていただくこともあるが、常に意識の中では目上の方に対する尊敬の念を持って対応を行っている。個人情報の記録についても第三者に漏らすことはなく、書類等の処分時は細かく手で破る等の細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、無理強いせず、ご利用者のその日の気分や希望、また体調を配慮しながら柔軟に対応を行っている。その日の洋服を選んでもらうことから始まり、散歩、買い物、レクリエーション等すべてその都度希望を確認しながら行っている。広間で会話をしたり、テレビを見たり、1人で居家で本を読んだり等、ご利用者が思い思いのペースで生活を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地域の商店から配達していただいている。また近くに100円で売っている野菜の無人販売があり、そこで野菜を見たり、購入することが楽しみでもあり、散歩の途中で旬の野菜があった場合はご利用者と一緒に献立を考え、その日のメニューを変更することもある。また今年の4月から畑にて野菜を作っており、これまでに茄子、胡瓜、トマト等を収穫している。調理の下ごしらえ、調理、配膳、食器の後片付け等、ご利用者のお力に応じて、それぞれのご利用者がお手伝いをして下さっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間と回数を概ね決めてはいるが、入浴の希望には柔軟に対応している。恥ずかしがられるご利用者もおられるため、羞恥心の配慮を徹底しており、入浴拒否のあるご利用者に対しては、その気持ちを察し、安心して入浴していただける声かけや時間をおいての対応を行っている。車椅子利用のご利用者もスタッフ2名で安心感が持てるような声かけを行いながら、ゆったりした気持ちで入浴ができるよう支援している。入浴剤を使用して、香りを楽しんでいただくこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者毎の生活歴や趣味・習慣を事前に情報収集し、最初はスタッフがお誘いし、個々人の能力を活かせる場面作りを行っている。能力に応じ塗り絵やかるた遊び、調理や下ごしらえ、食器の後片付けやテーブル拭き、貼り絵やカラオケ、縫い物等を思い思いに行っていたりしている。決まった時間に花に水を遣ったり、草取りをする方がおられスタッフも一緒に行っている。また現在は敬老会での発表を目指している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りに花壇があり、季節ごとの花植えや水遣り、草取り等の作業をご利用者と毎日行ったり、市内のドライブや作品展覧会の見学等、天気の良い日は戸外に出る機会も積極的に作っている。また隣接の通所サービスを利用したり、地域のお祭りや敬老会、季節ごと花を見に出かけることもある。少し離れた島から入居された方がおられ、馴染みの場所への外出は困難な方もいるが、ホーム近辺の地域への外出や郷土のお祭りには参加されている。	○	島からの入居の方もおられ馴染みの場所への外出は困難な状況あるが、ご利用者の希望を叶えたいと言う気持ちが強い。実現させるために必要な物品や手段・方法を具体的に考え、家族も含め少しずつ環境を整え実現につなげられ、島への里帰りツアーの実施を期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階の裏階段の入り口には危険防止のため、ご家族に同意をいただき施錠を行っているが、玄関は夜間戸締まりの19:00～8:30以外は出入りが自由に出来る状態である。スタッフは仕事の立つ位置に注意しながら、ドアが開く音がした時は制止をするのではなく、後ろからさりげなく見守りを行っている。また隣の病院でのリハビリが終了後には、病院との連携を図りながら遠目の見守りの中で一人でホームへ戻られることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	病院等と合同で年2回避難訓練を行っている。夜間を想定し、スタッフが自宅からどれくらいで駆けつけられるか、実際に即した状況で行うこともある。また防災設備会社から火災報知装置や消火器の使用説明・指導を受けている。地域住民の連絡網を作成し、緊急時の協力体制も整えており、病院と共同であるが備蓄も備え付けている。	○	災害時の備品の準備が十分に整っていないため、今後は毛布、お茶、水、外出用オムツ、懐中電灯等、どのような物がどれだけ必要であるのかを運営会議等を通して検討していき、災害時の対策がより充実していくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3時のおやつに牛乳を出しているが、飲めない方には代替としてコーヒー、ココア、紅茶等を選んでいただいている。毎日の食事摂取量や飲水量も記録しており、定期的な体重測定や血液検査を基に必要時に医師から助言を得るだけでなく、提供した献立表を年1回病院の管理栄養士からチェックを受け、同時に助言をいただいている。管理栄養士より“栄養バランスがしっかり摂れている、この状態で現状維持してほしい”との評価もいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を基調とした内部の至る所に季節の花を飾り、暖色系の家具で統一し、温かさが感じられる雰囲気作りを行っている。食卓のテーブル以外にもソファが設置されており、空間が広いこともあるが、ご利用者が思い思いの場所で寛いでいたり、テレビをみたり、居室で過ごしたりしている。気になる音や匂いも感じられず、適度な光もあり、過ごしやすい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけのベッドとクローゼット以外は持ち込み自由で、位牌や椅子、テレビ等それぞれの馴染みの物を持ち込まれ、ご利用者個々の空間になっている。居室の天井灯のスイッチ紐が届かないご利用者に対し、紐を長めにすることで自分で電気の操作が行えるように対応され、個人を尊重しながら過ごしやすい生活空間を作り上げている。		